

あなたの自慢の庭を見せてください

オープンガーデンはじめませんか？

皆さんは、オープンガーデンという言葉をご存知でしょうか？自宅の庭をある期間、一般の人たちに公開することをいいます。ガーデニングが全国的なブームになる中、このオープンガーデンに注目した取り組みが庄原市で動き始めています。また、市が進めるクラスターのまち実現プロジェクト、庄原地域の取り組みの一つとしても期待が高まっています。

今月号では、新たな観光資源として期待されるこの取り組みを取り上げ、庄原市のまちづくりを考えていきたいと思ひます。

オープンガーデンとはオープン(開放)とガーデン(garden=囲まれている、eden=楽しみ・悦びが語源)が組み合わさった言葉で、囲まれていて美しく快適な場所を開放すること。1920年代に英国で始まったもので、現在日本でも広がりを見せている。

今なぜオープンガーデンなのか

○ガーデニングで癒される人が急増

庭やベランダに花や植物を育てるガーデニングが人気を集めています。これは、ストレス社会に生きる現代人が、花や植物に触れることによって癒されたいという思いや、中高年を中心にゆとりある生活をしたたいと願うようになったことなどが起因しています。若い世代もハーブづくりなどを通じて花や植物への関心が高まっており、独身者の部屋にもミニ盆栽やミニ観葉植物が飾られるなど、人々の生活の中にガーデニングの発想が根付いてきています。

○ガーデニング人気の高さ

平成20年に「園芸・庭いじり」を行った人が、全国でなんと3260万人いるといわれています。これは、日本の総人口の実に約25%にも上ります。平成21年の「レジャー白書2009」によると、景気が低迷する中、余暇活動への参加は支出額の大きな海外旅行などの非日常型レジャーから、単価が安く家庭や近場で繰り返し参加して楽しめるような日常型レジャーに

変わってきています。その中でもテレビゲームやビデオ鑑賞といった室内で楽しむもののほか、これらに並んで「園芸・庭いじり」が大幅に増加してきています。身近で気軽に楽しめ、花や緑を見ることが心の安らぎを育めることで「喜びや満足感」が得られる「園芸・庭いじり」は、人気のレジャーになっているといえます。

○ガーデニングが観光資源に

自宅で個人的に楽しむガーデニングは、その個々の家庭で個性やセンスがあらわれるので植物園とは違った楽しさがあります。そして、各家の庭が美しくなることで町全体の景観が美しくなり、それが人を引き付ける観光資源へとつながっていくと期待されます。

○オープンガーデンが喜びに

庭は個人のプライベートエリアであり、自分自身を癒やす大切な空間です。他人が入り込んで乱されたくないと誰しも思ひます。しかし、オープンガーデンに参加する人は、自分が丹精込めた庭や花壇を、同じ趣味を持つ人に見てもらふことで共感してもらひ、訪れた人との交流を深めることが大きな喜びにつながっています。

市内でオープンガーデンの動き

全国的なオープンガーデン人気から庄原市でもオープンガーデンを進める動きが活発になっていきます。花好きが集まった「しょうばら花会議」は、昨年8月の設立以来、「身近な玄関から花と緑のまちづくり」をキーワードに、

「さとやまオープンガーデン」の開催に向けて取り組みを進めています。この取り組みについて、しょうばら花会議の理事長 佐藤浩子さんと庭主部会の部会長 貝崎光昭さんに伺いました。



しょうばら花会議
理事長
佐藤浩子さん

庄原の宝をみんなに知ってほしい

さとやまオープンガーデンをした
いと思ったきっかけは、庄原市にもす
てきな庭がたくさんあると知ったこ
とです。すでに多くの人が訪れてい

る庭もあることから、市内に点在する
宝物のような庭をネットワークでつな
ぐことで、庄原の花と庭による魅力を
発信できると思います、庭主部会を立ち上
げました。これが庄原市の観光振興に
もつながるものと期待しています。
個人の趣味として始まったガーデニ
ングが、地域の景観づくりや安心
安全の地域づくり、子ども情操教
育、交流人口の増加と滞在時間増加
による地域の活性化など社会生活に
広く貢献していることが、他市の事例

などから分かっています。
わたしたちの身近な玄関先から
「花と緑のまちづくり」の活動はで
きます。楽しみながら無理なくでき
ることからやってみることが大切だ
と思います。市民一人一人がそういっ
た意識に変わっていけば、すばらしい
まちになると思います。将来、ニュー
ジブランドのクライストチャーチのよ
うな花であふれるすてきなまちに
なるように、さとやまオープンガーデ
ンをぜひ成功させたいと思います。

交流人口の増加に期待



庭主部会
部会長
貝崎光昭さん

4月に立ち上がった「庭主部会」
の部員は、佐藤理事長の「庄原を愛
する熱き思い」に導かれ、活発に活
動を展開しています。

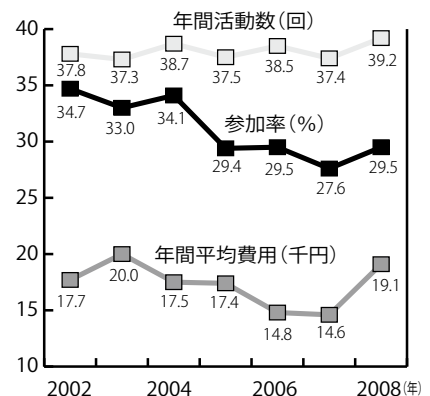
庭主部会の活動の最大の目的はさ
とやまオープンガーデンを進め成功さ
せること。そのためには、個々の庭の魅
力だけでなく部員の連携した取り組
みが必要です。思うほど簡単ではあ
りませんが、皆さんの意見を聞きなが
ら、試行錯誤して進めていきたいと思っ
ています。

訪れる方には、四季折々の色彩に囲ま
れた花木と里山の自然を生かし調和し
た庭風景に触れてもらい、ひと時のやす
らぎと癒やしの気分を味わってもらいた

い。庭を見ていいなあと少しでも思っ
てもらえたら、庄原に住みたい、また
来てみたいという人が出てくるかも
しれません。そのためには、市民が体
となつてまちづくりをして、遠くから
でも度々来ていただけるようにした
い。市民が盛り上がりつつないと、訪れ
た人は盛り上がりがないし、感動しな
いと思います。

市民の皆さんに「花と緑のまちづく
りの輪」が広がり、県内外からの交流
人口が増えればと期待しています。

【園芸・庭いじりへの参加率と年間活動回数の推移】



しょうばら花会議の活動をご紹介します

①仲間集めと気運の醸成

昨年度、ハンギングバスケットの講習会、フラワーロードの植栽ボランティア、オープンガーデンの先進地視察、ガーデニングコンテストやガーデニング講演会などのイベントを実施し、花好きの仲間を集める。現在の会員数は108人。

②ガーデニング技術の向上とオープンガーデンの実施

植物の育成や管理方法の講習と実習、花仲間との情報交換の場を提供するための「庭花部会」、また、オープンガーデンの実施に向けた「庭主部会」を設置。庭主が安心して庭を公開できる仕組みづくりを構築し、庄原のオープンガーデン実施を目指す。



寺迫美智枝さん
(本町)



わたしの桃源郷

山あいの中にある自宅の庭は、周りの自然に溶け込み、できるだけ周りと一体になるように土手や空き地を利用し、山野草を中心に植えています。派手さはありませんが、一年中何らかの花が咲いて、わたしにとってはまさに桃源郷のようなところですよ。



しようばら花会議の
メンバーが自慢の庭を披露
わたしたちと一緒に
ガーデニングを
楽しみましょう

本格的なオーブンガーデンの実施に向けて、5月21日(土)・22日(日)・6月11日(土)・12日(日)に実験的にオーブンガーデンを開催します。
詳しい内容は商工観光課(☎0824-1731178)へお問い合わせください。



田村虎和さん
(川西町)



自慢のジャーマンアイリス

自宅の裏に、ジャーマンアイリスという花を25年前から植え始めました。かなり苦労しましたが、現在では約130~140種、6,000本以上が花を咲かせてくれるまでになりました。



三上敏枝さん
(西本町)



くつろげる空間に

この庭は、わたしたちの老後のリハビリにという思いで作りました。

春夏秋冬の花を愛でて、夫婦ともども心を癒やして楽しんでいます。



滝川聖治さん
紀子さん
ご夫妻(比和町)



雄大な山が最高の景色に

バックに望む吾妻山のふもとで、季節の花々が庭に彩りを添えてくれます。お庭の花と一緒に、福田頭を望める比和の景色がとても好きです。



宮本暁雄さん
ひとみさん
ご夫妻(市町)



一つ一つの花木に思い入れ

庭にある花や木のほとんどが、仕事先などでいただいたものや採取してきたもので、差し木や接ぎ木をして育てました。その一つ一つに思い入れがあります。夫婦で楽しく手入れをしています。





三村桂子さん
(板橋町)

ゆったりした時間を提供します

石ころをベースに作った庭です。スイセン、コスモス、キスゲ、山野草など数多くの花木を植えています。休憩できるハウスも整備していますので、お茶を飲みながらゆったりとした時間を過ごしていただけます。



山根 治さん
(板橋町)

オリジナルの植物園

50aほどある敷地に2,000本以上の花木を植えています。植物園など見物するよりも自宅でそれに負けないものを作ろうと思い立ち20年以上かけて整備しました。ひと通り手入れするのに2週間ほどかかります。



貝崎光昭さん
(東本町)

庄原ならではの庭

山水が流れる庭は、都会では見られない庭だと思います。妻が企画・提案したものを、わたしが作業し形にしています。庭づくり、花づくりをするようになって一層庭に愛着を感じるようになりました。



谷口義則さん
多実子さん
ご夫妻(濁川町)

夫婦で愛情をかけ育てています

わたしたちは夫婦で花が大好きです。花を見ているととても心が穏やかになりますね。花は種から愛情をかけ育てています。花づくりは難しいところがおもしろいですし、毎年咲き方が違うところも楽しいところです。



しょうばら花会議では、身近な玄関先から「花と緑のまちづくり」を広げていきたいと考えています。

しかし、楽しくない活動は長続きしません。当会は、参加する人が愉快で楽しいことが一番の目標でありたいと考えています。楽しみながら、住んでよかったと思えるまちづくりを目指して一緒に頑張りましょう。

**しょうばら花会議では
会員を募集しています**



佐々木二千六さん
隆子さん
ご夫妻(市町)

楽しい仕掛けで楽しめます

山の斜面のある庭でとても見晴らしが良いです。足湯や月見台など楽しい仕掛けもあります。山の上からゆっくりと景色を眺めながら味わうお酒は最高ですよ。



インタビュー

公園をより魅力あるものにするためには、市内が花であふれることが必要だと感じていました。そんなとき市民で作る「しよらばら花会議」が立ち上がったと知り、これはチャンスだと思いました。備北丘陵公園の管理運営は、これまで財団法人公園緑地管理財団が国から受託していましたが、昨年6月から地元市が出資する第三セクター「グリーンウインズ」とやまが中心となり、全国の国営公園の管理運営のノウハウを持つ「公園緑



備北丘陵公園
公園管理センター長
奥井智裕さん

連携で花のあふれる庄原市に

地管理財団」と植物に関してさまざまな知識を持つ「広島緑地建設」の3者で受託することになりました。これにより、公園内だけでなく園外に目を向けたさまざまな取り組みも行える体制になりました。地域に対してすぐに公園として何ができるかを検討し、公園が持っている花の知識や技術を伝えること、逆に公園に来ていただいで、公園づくりにいろいろと携わっていただくよう考えました。具体的には、公園内施設を利用して技術講習を行い、その代わりとしてボランティア登録をお願いし、園内の花の植え付けや手入れなどをお手伝いしていただきます。これによりお互いにメリットを得られるとともにお互いの距離が近づけばと考えています。この取り組みが広がり、市民の方に花づくりが浸透していけば、花のあふれる庄原市になる。そうなってくれたらうれしいですね。

花と緑のまちを
目指して

○花と緑で集客する国営備北丘陵公園と連携

花好きの人をターゲットにした、公園独自の魅力とオープンガーデン

の魅力で毎年多くの観光客が訪れている国営備北丘陵公園。この公園との連携が今後の花と緑のまちづくりの鍵を握ると佐藤理事長は話しています。しよらばら花会議など市内の動きをどう見ているのか、備北丘陵公園管理センターの奥井智裕管理センター長に伺いました。

インタビュー

市は、各地域の個性や特性を發揮しながら一体的な発展を目指す「クラスターのまち実現プロジェクト」に取り組んでいます。その中で庄原地域は「まち」は「公園」！リーディング事業として、国営備北丘陵公園へ来園される観光客をまちなかに誘導する仕掛けを作り、地域経済への波及効果を狙っています。



商工観光課
三玉政則課長

市内全体の取り組みへ

その二環として取り組みなのがオープンガーデンです。それぞれの家庭で丹精込めて手入れされている庭を多くの人に見てもらおうことで、交流が生まれ、花作りの楽しみや喜びが市内全体に広がり、市内が美しい景観になれば、丘陵公園来園者がまちなかを回遊し、活気ある市街地になると期待しています。市民がつくる「しよらばら花会議」を中心に、花庭に興味のある方が、自分たちも楽しみながら活動しています。市民の皆さんには、玄関先のプランターやハンギングバスケットなど、思い思いにガーデニングを楽しんでいただき、オープンガーデンやガーデニングコンテストに参加いただくことで、交流人口が増えまちなかが活性化されると思います。市民の皆さんによる「まちなか周辺」を舞台とした美しいまちづくり「オープンガーデン」が市内全域に広がり、丘陵公園を核にしなが、花のまち庄原というイメージが生まれるよう、取り組みを進めたいと思います。

○課長に聞く

さとやまオープンガーデン事業を、クラスターのまち実現プロジェクトの一つの取り組みから、市内全体への取り組みに盛り上げていきたいと考えています。今後の展開などをこの事業を担

当する商工観光課 三玉政則課長に聞きました。

